

都市戦略部 マネジメント方針

都市戦略部では市長との政策協議のもと、次のとおり基本方針・組織目標・行動目標を定めました。この方針に基づき目標の達成に向け着実に取り組みます。

令和4年4月1日

都市戦略部長
桑原 雄 二



【基本方針】

子どもから高齢者まで、全ての市民が安全・安心で豊かな生活を送ることができるよう、市民と行政が手を携え、民間の活力を活かしながら、誰もが住み続けたい、住んでみたいと思える「みんなが輝く全国に誇れるふくい」の実現に向け、積極的に取り組みます。

まず、2年後に迫った北陸新幹線福井開業を見据え、福井駅周辺において、福井市観光交流センターや市街地再開発などを確実に進めます。また、福井県、福井商工会議所と組織する県都にぎわい創生協議会での議論を踏まえ、官民連携した県都の玄関口にふさわしい魅力と賑わいのあるまちづくりを進めます。

次に、本格的な人口減少・少子高齢社会が進展するなか、福井市都市計画マスタープラン（平成22年～令和12年）に基づき、市街地や農山漁村部など地域の特色を活かし、土地利用の適正化などを図り、持続可能なまちづくりを進めます。




また、並行在来線会社の設立など、本市の交通環境は大きく変わろうとしており、第2次福井市都市交通戦略（令和3年度～12年度）に基づき、地域をつなぐ「全域交通ネットワーク」づくりを進めます。

さらに、高齢者をはじめ誰もが安全で安心な暮らしをおくることができるよう、第11次福井市交通安全計画（令和3年度～7年度）に基づき、交通安全対策を進めます。






最後に、国のデジタル社会の実現に向けた方針を見据え、福井市DX推進計画（令和4年度～8年度）に基づき、みんなが豊かで快適に暮らすまちづくりを進めます。

【組織目標】



- I. 北陸新幹線福井開業に向けて、福井駅周辺での取組を確実に進め、県都の玄関口にふさわしい魅力と賑わいのあるまちづくりを進めます
- II. 福井市都市計画マスタープラン（平成 22 年～令和 12 年）に基づき、適正な土地利用の誘導と快適な生活環境の維持に努め、持続可能なまちづくりを進めます
- III. 第 2 次福井市都市交通戦略（令和 3 年度～12 年度）に基づき、地域をつなぐ「全域交通ネットワーク」の構築を進めます
- IV. 第 11 次福井市交通安全計画（令和 3 年度～7 年度）に基づき、交通安全対策を進めます
- V. 福井市DX推進計画（令和 4 年度～8 年度）に基づき、デジタル技術等を活用し、市民の利便性の向上や業務の効率化のための各種施策を進めます

行動目標	SDGs 指標
<p>3 新たなまちの魅力と回遊性の向上</p> <p>福井城址周辺の道路整備を継続して行い、福井城址から養浩館へ快適に歩ける道路空間を形成することにより回遊性を高めます。</p> <p>北陸新幹線福井開業に向けて、来街者が気持ちよく利用していただけるよう高架下トイレの改修を行うことや、多言語化に対応し、多様な方にわかりやすい案内のため公共サインを改修します。</p> <p>また、中核市として、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町の魅力ある自然、歴史、文化などの地域資源のPRや体験イベントを開催します。</p> <p>いつでも誰でも気軽に利用できるよう、ICTを活用したシェアサイクルシステム（※1）の整備を行います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>福井城址周辺道路整備の推進 ： L = 70m</p> <p>高架下トイレの改修</p> <p>公共サインの改修</p> <p>中心拠点（※2）の賑わい創出イベント実施 ： 8月</p> <p>ICTを活用したシェアサイクルシステムの整備</p> </div> <p>※1 ICTを活用したシェアサイクルシステム スマホアプリを基本とした、キャッシュレス決済、予約、非接触型の貸出・返却システム</p> <p>※2 中心拠点 連携中枢都市圏の高次の都市機能の集積・強化を図る福井駅周辺エリア</p>	
<p>4 北陸新幹線の建設促進</p> <p>令和6年春に北陸新幹線が確実に開業できるよう、国、県との連絡を密にし、連携して取り組みます。</p> <p>福井開業1年前の機会にあわせ、イベント等を通して、機運醸成を図ります。</p> <p>福井市観光交流センターについては、福井駅舎と一体的な施設となるため、関係者と協議しながら計画的に整備を進めるとともに、令和5年10月に着実に供用開始できるよう、施設の指定管理者を選定します。</p> <p>また、敦賀・大阪間については、早期全線開業を実現するため、県及び関係機関と連携し、建設を促進します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>① 北陸新幹線建設促進協議会等の開催数：5回</p> <p>機運醸成のイベント等の回数 ：3回</p> <p>福井市観光交流センター建築工事完成：1月</p> <p>福井市観光交流センターの指定管理者の選定 ：9月</p> </div>	 



組織目標Ⅱ 福井市都市計画マスタープラン（平成22年～令和12年）に基づき、適正な土地利用の誘導と快適な生活環境の維持に努め、持続可能なまちづくりを進めます

行動目標	SDGs 指標
<p>5 適正な土地利用の推進</p> <p>福井市都市計画マスタープランに掲げる将来都市像の実現に向けて、越前東郷駅周辺の土地区画整理事業等により、新たに整備された地形地物等と用途地域等の区域界との不整合を解消するため、用途地域等を変更します。</p> <p>北陸新幹線福井開業を控える中、県都の玄関口にふさわしいまちづくりを実現するため、都市機能誘導区域（※）において、民間の活動や投資を促進し、広域的な機能を有する施設の誘導が図られるよう、土地利用規制の見直し等を検討します。</p> <p>地域の特性を活かしたきめ細やかなまちづくりを推進し、都市計画制度の理解・活用を図るため、自治会・関係団体等との意見交換を行います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>東郷駅東部土地区画整理事業等に伴う用途地域等の変更 自治会・関係団体等との意見交換会の開催：3回</p> </div> <p>※ 都市機能誘導区域 医療、福祉、商業等の機能を誘導、集約し、各種サービスの効率的な提供を図る区域。まちなか地区（県及び市の社会経済活動の中心的役割を果たしてきた地区）及び田原町駅周辺（半径500m）を一体的に指定。</p>	 
<p>6 街路整備の推進</p> <p>まちの骨格となる幹線道路について、計画的に整備を進めます。</p> <p>志比口開発線は、隣接する環状東線の混雑緩和と福井森田道路からの新たな交通流入に対応するため、今年度供用を開始します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>都市計画道路整備率（※）：84.2%（3年度）→85.0%（4年度） 志比口開発線の供用開始：8月</p> </div> <p>※ 都市計画道路の整備率（整備済延長累計／都市計画決定延長） 令和3年度実績 196,750m/233,680m≒84.2% 令和4年度目標 (196,750m+1,810m)/233,680m≒85.0%</p>	 
<p>7 県都にふさわしい良好な景観形成</p> <p>県都にふさわしい美しい街並みをつくるため、民間が行う良好な景観に配慮した建築物等の更新やまちの魅力向上に資する事業に支援します。</p> <p>また、福井らしい景観をつくり・育てるために、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町と連携した広域的な景観の形成を進めます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>景観まちづくり事業による支援：5件 広域景観形成のPR動画作成</p> </div>	





組織目標Ⅲ 第2次福井市都市交通戦略（令和3年度～12年度）に基づき、地域をつなぐ「全域交通ネットワーク」の構築を進めます

行動目標	SDGs 指標
<p>8 並行在来線開業準備</p> <p>並行在来線準備会社への第2次出資を行うとともに、新駅設置候補地の絞り込みや既存駅へのアクセス向上、モデルチェンジ（※）を進めるための整備方針を検討するなど、前年度策定した「経営計画」に基づき、開業準備を本格化させます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>並行在来線準備会社の本格会社移行：7月 新駅（森田駅・福井駅間）候補地の選定 利用促進策の方針検討</p> </div> <p>※ 既存駅のモデルチェンジ 使いやすく、楽しく、特徴ある駅へと改善を図るとともに、駅舎内の空きスペースの利活用などにより「地元から親しまれる駅」「行ってみたいくなる駅」へとモデルチェンジする（令和3年10月策定福井県並行在来線経営計画）。</p>	
<p>9 二次交通の充実と利用促進</p> <p>公共交通相互のモビリティネットワークを充実し、「行きたいところにスムーズに行ける」交通環境を構築するため、地域鉄道及びバス路線が安定運行を継続するための支援を行うとともに、利便性向上に取り組みます。</p> <p>また、公共交通について「知ってもらい、乗ってもらう」ための情報発信や、中心市街地の店舗と連携した運賃割引などに取り組み、公共交通の利用促進を図ります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>② 公共交通機関（※）の乗車人数 : 743 万人（3年度見込）→ 830 万人（4年度）</p> </div> <p>※ 公共交通機関 えちぜん鉄道、福井鉄道、路線バス（地域バス、コミュニティバスを含む）を対象とする。</p>	



行動目標	SDGs 指標
<p>10 ICTを活用した交通利便性の向上 DX</p> <p>市民や観光客が公共交通を選択しやすくなる環境づくりのため、MaaSシステム（※1）の導入やキャッシュレス決済の普及促進など、ICTを活用した利便性の向上に取り組めます。</p> <p>MaaSシステムについては、令和5年度末の本格導入に向けて、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町、交通事業者、民間事業者等と「ふくいMaaS協議会」を立ち上げ、デジタルチケットの導入などの実証実験に取り組めます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>ふくいMaaS協議会の設立：5月</p> <p> 3 公共交通のキャッシュレス決済比率（※2） ：18.3%（3年度）→ 20.0%（4年度）</p> </div> <p>※1 MaaSシステム Mobility as a Service の略。目的地までの移動について、複数の交通機関の中から各個人に最適な経路や移動手段を組み合わせ、一括に提供するサービスのこと。</p> <p>※2 公共交通のキャッシュレス決済比率 えちぜん鉄道、福井鉄道の運輸収入におけるキャッシュレス決済額の割合。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>  </div>
<p>11 自転車の利用促進と利便性の向上 ゼロカーボン</p> <p>新幹線開業に向け、通勤・通学や観光での移動手段として自転車の利用を促すため、JR福井駅高架下及びJR越美北線一乗谷駅の自転車駐車場の改修等を行い、利用環境の改善を図ります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>サイクルアンドライドの推進 鉄道駅自転車駐車場の改修等：2カ所</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p style="text-align: center;">更新した自転車ラック（JR福井駅高架下の自転車駐車場）</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>  </div>

行動目標	SDGs 指標
<p>12 ④地域拠点の機能充実と地域内移動手段の確保</p> <p>地域住民の身近な生活空間の中心である地域拠点において、公共交通機関の待合環境の向上や案内サインの充実など、機能充実を図ります。</p> <p>また、地域バスやコミュニティバスなど、地域拠点に結節するフィーダー交通（※1）について、フルデマンドタクシー（※2）の本格運行や福祉車両の活用、運行ルートの調整など、地域特性に応じた移動手段の確保に努めます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>④ フィーダー交通の乗車人数 ：12.5万人（3年度）→15.0万人（4年度）</p> </div> <p>※1 フィーダー交通 フィーダーとは「枝」という意味で、交通分野では「幹線」に対する「支線」を指す。本市では、中心市街地と地域拠点（日常生活に必要なサービス等が集積した地域の生活拠点）を結ぶ移動手段である「公共交通幹線軸」に対し、地域拠点とその周辺地域を結ぶ地域内交通を「フィーダー交通」としている。</p> <p>※2 フルデマンドタクシー 路線バスの維持が困難な地域の公共交通として、定員10名以下のタクシー車両を活用し、時刻表によらず、利用者の予約に応じて運行するもの。</p>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #2e8b57; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>3 3 すべての人に健康と福祉を</p>  </div> <div style="background-color: #ffc107; color: white; padding: 5px;"> <p>11 11 住み続けられるまちづくりを</p>  </div> </div>

組織目標Ⅳ 第11次福井市交通安全計画（令和3年度～7年度）に基づき、交通安全対策を進めます

行動目標	SDGs 指標
<p>13 高齢者と子どもの事故防止</p> <p>交通事故による「死者数・重傷者数」(※1)を減らし、交通事故の少ない安全で安心なまちをつくりまします。</p> <p>高齢者や子どもを対象に、楽しくわかりやすい交通安全教育を行います。特に近年は、高齢者の交通事故が多いことから、外出時の反射材着用や改正道路交通法に伴う安全運転サポートカー限定の免許制度(※2)等の周知・啓発に努めます。</p> <p>また、自転車の事故を防止するため、自転車通学の中学生を対象に正しい交通ルールの周知とマナーの啓発を行います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>③9 交通事故死者数 : 12人(3年) → 7人以下(4年)</p> <p>④0 交通事故重傷者数 : 59人(3年) → 40人以下(4年)</p> <p>中学生を対象とした自転車ルール・マナーの啓発活動 : 2校</p> </div> <p>※1 死者数・重傷者数 令和7年までに達成すべき基本目標値(第11次福井市交通安全計画) ・死者数 7人以下 ・重傷者数 40人以下</p> <p>※2 安全運転サポートカー限定の免許制度(令和4年5月13日施行) 衝突被害を軽減する自動ブレーキや、ペダルの踏み間違いによる急加速を防ぐ装置など、安全運転支援機能を備えた車に限定して運転が可能な免許制度</p>	 
<p>14 車に頼り過ぎない社会づくり ゼロカーボン</p> <p>高齢者の運転による事故を防止するため、自身の運転能力を測るためのセルフチェックを呼びかけ、運転に自信のない方への免許の自主返納を促します。</p> <p>また、まちなかでの移動が便利で快適に回遊できるよう、まちなかレンタルサイクル「ふくチャリ」(※)の利用促進を図ります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>高齢者運転免許証自主返納者数 (年次)</p> <p>: 792人(3年) → 830人(4年)</p> <p>ふくチャリの利用回数</p> <p>: 5,051回(3年度) → 6,300回(4年度)</p> </div> <p>※ ふくチャリ 市民や観光客等の来街者に対してレンタルサイクルを提供することで、まちなかにおける利便性と回遊性を高めるため、ホテルや観光・公共施設等とともに「レンタルサイクル運営協議会」(以下「協議会」)を設立している。 協議会では、電動アシスト自転車を配備し、自転車の再配置や点検、電話応対などを行っている。</p> <p>○貸出場所数 14カ所 ○台数 35台</p>	 

組織目標V 福井市DX推進計画（令和4年度～8年度）に基づき、デジタル技術等を活用し、市民の利便性の向上や業務の効率化のための各種施策を進めます

行動目標	SDGs 指標
<p>15 デジタル化による市民サービスの向上 DX</p> <p>AIチャットボットの運用や、行政手続のオンライン化を推進し、市民サービスの向上を図るとともに業務の効率化に取り組みます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>AIチャットボット年間利用件数：144,576件（3年度）→210,000件（4年度） オンライン化申請手続数：38手続（3年度）→58手続（4年度）</p> </div>	
<p>16 新情報システムの標準化・共通化や新技術の業務への活用 DX</p> <p>令和7年度末までに20の基幹系業務システムを国の基準に適合した標準準拠システムに円滑に移行するため、今年度は、標準仕様との比較分析や移行計画の作成などに取り組みます。</p> <p>また、AI（※1）議事録作成支援システムのトライアルを実施するほか、RPA（※2）の導入業務を拡大し、業務の効率化に取り組みます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>標準準拠システムへの移行に関する進捗率（※3） ： 11.7%（3年度）→29.4%（4年度） RPAの導入による業務削減時間：1,318時間（3年度）→2,100時間（4年度）</p> </div> <p>※1 AIとは、Artificial Intelligenceの略称。 人工的にコンピューター上などで人間と同様の知能を実現させようという試み、あるいはそのための一連の基礎技術。</p> <p>※2 RPAとは、Robotic Process Automationの略称。 人間が行う定型的なパソコン操作をソフトウェアのロボットが代替して自動化するもの。</p> <p>※3 進捗率 完了済作業項目／17作業項目×100 （作業項目：国が作成した「自治体情報システムの標準化・共通化に係る手順書」内で示された項目）</p>	
<p>17 DX推進のためのデジタル人材を育成する研修の実施 DX</p> <p>DXを推進するため、全庁的な機運の醸成とともにデジタル人材の育成に向けて、職員の役割に応じた研修の実施に取り組みます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>デジタル人材育成のための研修回数：14回（3年度）→21回（4年度）</p> </div>	